

令和4年度一般財団法人泉佐野市文化振興財団事業計画

令和4年度は、前年に泉佐野市にて実施されました文化センターならびに各公民館の指定管理者公募結果を受け、新たに5年間の管理運営を受ける最初の年度となります。

財団は改めて5年間の指定管理者を受託することで、これまでの「経験と実績」を源泉として、急速情報化社会の発展やコロナ禍などへ「変化への対応力と創意工夫」をもって、新たな心構えで運営してまいります。

そして、引き続き「利用者ニーズを反映した施設運営」「安全・安心で快適な施設管理」「市民参加多様なジャンルでの文化振興」の三つを基本方針としながらも、新しいスマートライフの中での事業運営を推し進めて参ります。

貸館事業においては、利用者ニーズを反映した施設運営の継続に加え、新型コロナウイルス感染拡大止策の徹底と、それに伴う施設利用基準等の指針を明示、遵守し、安全に安心して利用できる施設運営取り組みます。

コロナ禍で失った施設の利用機会や利用料収入の回復を目指し、施設の料金設定やPRの手段など、まざまな角度から利用促進に繋がる手法を試みます。

また、使用料やチケット代金のキャッシュレス化を具現化し、利用者の立場にたった、より便利で、安心して利用できる施設運営の実現を目指し、さらなるサービスの向上と公の施設として平等な利用を促します。

次に、施設管理事業においては、文化センターは開館から25年を経過しており、建物および主要設機器の老朽化による故障や、交換部品等の供給終了によるメンテナンス不可などの不具合が多発してまいります。

また、建築物や消防、ビル管理などの法改正により、現在の基準に合致しない建物および設備機器類既存不適格カ所が多数発生しております。

よって、設置者である泉佐野市に建物ならびに設備機器の改修・更新計画資料を提案し、現行法規に合った安全で使いやすい施設の運用に努めます。

また、年次目標を立て光熱水費の縮減に努め、清掃や設備管理等の各業務に対して適切な人材を配置良好な衛生環境、美観、設備機能に心掛けます。

三つ目に、文化振興事業においては失われた鑑賞機会の復旧に努めることを最優先事項と考え「一般賞型事業」「賑わいづくり事業」を当面の中心事業とし、活気にあふれ、賑わいのあるホールづくりに力して参ります。

また、「市民参加事業」や「音楽家・美術家等の発掘・育成・普及事業」「地域文化の発展を目指し事業」においても、市民、地域住民へ文化の還元というかたちで、地域の文化団体やアーティストと連しつづ継続して参ります。

なお、公民館事業においても、同様の感染拡大防止策を徹底したうえで、既存の講座のみならず、財独自の企画による公演や事業を展開し、より魅力のある文化振興を様々な内容にて、広域的に展開してまいります。

1. 貸館業務

- ① 新型コロナウイルス感染拡大の防止対策を徹底し、安心して利用頂ける施設内環境を目指します。
- ② 利用登録者に施設の安全性を示した案内をメール等で周知し、コロナ禍での施設利用減少の回復注力します。
- ③ キャッシュレス化の実現に向け、施設使用料およびチケット販売等のオンライン決済ならびに窓でのクレジットカード決済、スマホ決済を導入いたします。
- ④ 利用者から要望の多い生涯学習センターのWi-Fi設備を整備しました。
- ⑤ 市と協議のうえ、施設利用料の改定を検討します。
- ⑥ イベント会社と連携し、貸館公演での施設利用を促進します。
- ⑦ ワンストップサービスの充実を図り、きめ細やかなサービスの提供に努めます。
- ⑧ キッズコーナーの充実、赤ちゃんの駅の設置、ベビーシートやおむつ台、レンタルスペースの設により、利用者ニーズに可能な限りこたえられるよう努めます。
- ⑨ 公衆衛生向上のため、文化会館共用部のトイレを洋式化に更新しました。
- ⑩ 今後は文化会館・生涯学習センターで運用しているクラウド型施設予約システムを公民館でも運できるよう検討します。
- ⑪ 各公民館のクラブ活動の活性化を図るべく、クラブ登録の条件を泉佐野市と協議のうえ緩和し、域住民による自主的な生涯活動をサポートして参ります。

2. 施設の維持管理業務

- ① コロナウイルス感染防止策として、各施設の清掃員、職員による日々の消毒、除菌を含めた清掃動を強化します。
- ② 感染拡大予防として、館内の空気調和機・換気システムの連続的な運転を実施いたします。
- ③ 新型コロナウイルス感染対応時のマニュアルを適宜に修正し、有事の際に備えます。
- ④ 文化センターの経年劣化による設備機器の改修・更新に備えて、第3次建築設備更新計画案を泉野市に提案、協働し、安全で安心できる施設の維持管理に努めます。
- ⑤ 各施設の消防計画や危機管理マニュアルを現状に合致した内容に改定し、不測の事態事故に備えます。
- ⑥ 第3次環境保護方針・計画を策定し、また年次目標を設定し、光熱水の効率的な運用ならびに廃物の抑制をおこない、環境にやさしい施設づくりに取り組みます。
- ⑦ 建物、設備機器の法令点検やメンテナンス業務を計画的に実施し、施設を最良の状態に保てるよ努めます。
- ⑧ 軽微な修繕や点検業務については、職員及び従業員で実施し、維持管理経費の軽減に努めます。
- ⑨ 佐野長南公民館は、文化センターと同様に建物や設備機器の老朽化が大きな問題となっており、よって建築設備更新計画案を泉佐野市に提案し、利用者の安全性を最優先に考えた、安心して利用できる公民館運営を目指します。
- ⑩ 令和元年度から管理運営が開始しました日根野公民館については、他施設の管理を長期にて手掛てきた実績を活かし、今後の中期的な建物及び設備機器の修繕、更新計画を立案して参ります。

3. 文化振興事業

現在コロナ禍による劇場等での通常公演がままならない状況にあるなか、事業の中止や規模縮小による事業の実施回数や集客数が大幅に減少しています。

この状況を回復するために、「一般鑑賞型事業」、「賑わいづくり事業」を軸に公演を実施し、まずホールに賑わいを取り戻すことに注力いたします。

併せて、感染防止ガイドラインに準じた施策で、新しい基準の公演体系を構築したうえで、集客がままならない場合は、配信型公演なども交えた、新しい劇場様式での文化振興事業を企画実施して参ります。

また、今日まで培ってきた経験と実績、更には泉佐野市、泉佐野市文化協会、泉の森コンクール委員、泉佐野市音楽家クラブ、泉佐野おや子劇場など地域団体との連携を最大限に活かした文化振興事業を展開します。

なお、全体の文化振興事業は、下記の6つの分野を主軸としてバランスの取れた事業計画を提案して参ります。

また、公民館事業については、先に記載した関係諸団体と連携しつつ、今までの公民館事業では開催難しかった演奏会や講演会等を企画・実施して参ります。

① 文化振興事業編成

概ね、次の事業編成を計画しております。

- 市民参加型事業
- 音楽家・芸術家等の発掘・育成・普及事業
- オーケストラ・室内楽事業
- 一般鑑賞型事業
- 地域文化の発展を目指した事業
- 賑わいづくり事業

② 広報・宣伝

年3回発行の情報紙「エブノ泉の森ニュース」を主に泉佐野市、熊取町、泉南市、阪南市の約8,000世帯に折込みすることを軸とし、チラシ配布や公演ポスターの掲示に加え、公用車でのPやホームページ等を活用して情報提供に努めます。

併せて、WEB媒体を活用した宣伝にて、様々な方を対象とした広報を広く周知して参ります。

また、時代に沿った活動として「Twitter」や「Facebook」「LINE」「Instagram」などのSNSによる情報発信を拡張して参ります。

加えて、昨年に開設した「文化会館公式YouTube」を活用し、配信・投稿型イベントな様々な動画配信を企画、実施して参ります。

③ 情報収集

利用者の意見を把握するために公演実施の際、来場者アンケートの配布を行い、情報収集に努めます。項目については個人情報に抵触しない範囲内で「公演の感想」「交通手段」「年齢」「居住」「性別」など意見をご記入いただきます。

また、文化会館公式「Twitter」や「LINE」などSNSでの「つぶやき」や「コメント」をすくい上げ、ダイレクトな感想や意見を活用して参ります。

ならびに様々な団体や協議会等の研修や講座に参加することにより、他館との交流を深め他施設近隣地域の文化情報等の収集に努めます。

4. 友の会の運営

近年の会員数の減少傾向に加え、コロナ禍による文化振興事業の中止や臨時休館にて更なる会員数落ち込みが生じています。

よって、今後の友の会組織の在り方を刷新し、新たに原則としてメールで登録いただく無料の会員組織「i z u M e e t S (いずみーつ)」を立ち上げ、現代そして今後のニーズに合致した魅力ある組織として運営して参ります。

また、友の会組織に付随した文化振興事業のサポーターとして活動頂いただく、ボランティアスタッフについては引き続き継続し、更なるスタッフの増加ならびに育成に努めて参ります。

なお、友の会組織の刷新による「友の会特別会計」については、移行段階につき整理期間として暫間存続し、残金については今後の新組織の運用予備費として備えますが、将来的には時期を見計らった文化振興事業費に繰り入れる予定です。